

第65回全国学校薬剤師大会報告

日 時 : 平成27年12月3日(木)
場 所 : ひめぎんホール 国際ホテル松山

表彰式

- (1) 文部科学大臣表彰学校保健及び学校安全表彰
32名受賞
- (2) 日本薬剤師会学校薬剤師賞
10名受賞
(山口県より西村正広先生受賞)
- (3) 日本薬剤師会学校薬剤師活動協力者感謝状
7名受賞
(山口県より平田奈奈美先生受賞)

特別講演

演 題 : 子規の最期
一条瓜の水も間にあはずー

講 師 : 松山市立子規記念博物館
館長 竹 田 美 喜 先生

正岡子規は近代俳句の祖、俳句改新を明治期に成し遂げた俳人として、江戸期の俳聖松尾芭蕉と並び称されている。誰もが知っている俳句といえば、芭蕉の「古池や蛙飛び込む水の音」と、子規の「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」であろう。その正岡子規は松山藩の士族の息子であった。生まれたのは、慶応3年(1867)9月17日(陽暦10月14日)、明治政府が生まれる前年であった。親友の夏目漱石も同じ慶応3年生まれである。子規の俳句革新、短歌革新、文章革新などの偉業は、そのほとんどが病床で成されたものである。門下の俳人達、歌人達、家族の手厚い看護や支えがあったのはもちろんであるが、子規自身が自己の存在を賭けた闘いを死の床で戦い続けた。ひしひしと迫りくる死を感じながらの絶望的で孤独な闘いだったことと思われる。子規はそれを一人耐えて、明治35年(1902)9月19日、34歳11ヶ月で子規は永眠した。